

2024 February プレスリリース | カール・ハンセン & サン 新作情報

建築家ヴィルヘルム・ラウリッツェンによる「Vegaチェア」 クローム仕様のフレームで2024年2月新登場



カール・ハンセン & サンは、ヴィルヘルム・ラウリッツェンが手がけた「Vega（ヴェガ）チェア」に、新たにクロームメッキのスチールフレームで仕上げた仕様を2024年2月より発売いたします。

2023年3月に登場した「Vegaチェア」は、ブラック粉体塗装スチールで展開していましたが、温かみのある木材や室内装飾品と美しいコントラストをなすクロームメッキのスチールフレームのバージョンを展開する運びとなりました。

プライベート空間やパブリックスペースをはじめ、さまざまなインテリアシーンで選択いただけるようなデザインに仕上がっています。

Vegaチェアは、背もたれの部分のダイナミックな曲線が特徴的で、エレガントに仕上げた脚に無垢のオーク材のレッグキャップは、優れた職人技によるディテールを添えています。また、軽量で最大8脚までスタッキングが可能という実用性も兼ね備えています。

「Vegaチェア」は、デンマークが誇る建築家ヴィルヘルム・ラウリッツェン（Vilhelm Lauritzen）が1956年に、コペンハーゲンのヴェスターブロ地区にあるVegaコンサートホール（旧「Folkets Hus（人民の家）」）の室内備品としてデザインしたものです。ヴィルヘルム・ラウリッツェンは、家具、壁面の木材パネル、シャンデリア、照明器具から、ドアの取っ手やコンセントまで、Vega向けにあらゆるものをデザインしました。「Vegaチェア」は、カール・ハンセン & サンが2022年にVilhelm Lauritzen Architectsとの共同生産を開始するまで、多くの人々の目に触れることはありませんでした。

製品情報

製品名 VLA26 Vegaチェア クロームメッキスチール

サイズ (cm) 座面 板座 高45 パディングあり 高46
全高 80.5、幅56、奥行き53.5

参考小売価格 VLA26T 75,900円～ 板座
VLA26P 117,700円～ パディングあり(ともに税込)

素材 フレーム: クロームメッキスチール
座面と背もたれ: 張地あり/なしのFSC認証オーク材 (FSC C135991)
張地: レザーまたはファブリック

発売開始 2024年2月1日 (木)

Press Image

<https://carlhansen.presscloud.com/digitalshowroom/#/selection/392577495245330>



参考情報

ヴィルヘルム・ラウリッツェンと「ヴェガチェア」について

デンマークが誇る建築家 ヴィルヘルム・ラウリッツェン（1894 – 1984）が1956年にデザインした軽量でスタッキング可能な「ヴェガチェア」は、2022年6月にデンマーク コペンハーゲンで発表および発売をスタートし、日本での展開は、2023年3月よりスタートしました。

デンマーク機能主義のパイオニアでもあり、画期的な建築物を設計した国際的に知られる建築家、ヴィルヘルム・ラウリッツェンは、建物から家具、ドアノブに至るまで、細部まで徹底的に考え抜かれた数々のモダニズムの名作を生み出してきました。

ヴィルヘルム・ラウリッツェンによる設計で1956年に竣工し、建設当時は労働運動のための多目的集会場として誕生した「Folkets Hus（人民の家）」。ラウリッツェンは、椅子、テーブル、木製パネル、壁面の装飾、シャンデリア、備品、ドアハンドル、ソケットなど、あらゆるものを完璧なまでにデザインしました。ヴィルヘルム・ラウリッツェンにとって、小さなディテールこそが大きな違いを生み、空間全体をひとつにまとめているのです。

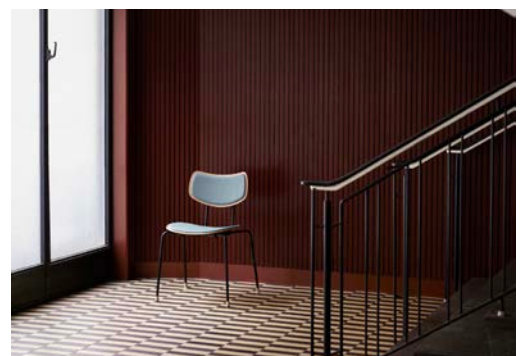
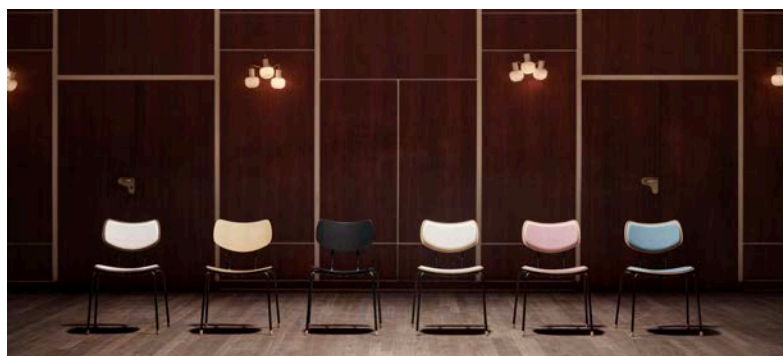
その後、このモダニズム様式の建物「Folkets Hus」は大規模な修復を経て、1996年にコンサートホール「VEGA」として役割を変え、以来コペンハーゲンの文化を牽引しています。

ラウリッツェンの妥協のない細部へのこだわりは、スチール、木材、ファブリックまたはレザーをエレガントに組み合わせたスタッキングが可能な「Vegaチェア」にも表れています。座面と背もたれに施された緻密な張地が、全体をほっそりと洗練された印象を与えます。また、よりシンプルな外観にするために、張地なしの仕様も展開し、オークの風合いをお楽しみいただけます。

「Vegaチェア」は、エレガントな脚部、無垢のオーク材のレッグキャップ、そして背もたれのダイナミックなカーブが、個性を際立たせたクラフトマンシップの光る特別なチェアに仕上がっています。



コンサートホール「VEGA」 / Photo : Rasmus Hjortshøj



Vilhelm Lauritzen（ヴィルヘルム・ラウリッツェン）プロフィール / 1894-1984



ヴィルヘルム・テオドア・ラウリッツェンは、デンマークを代表する建築家であり、デンマークモダニズムの父とも呼ばれています。今日、彼が手がけた多くのプロジェクトは、当時としては画期的な、形態に機能を従わせた建築の好例として残されています。彼はそのキャリアを通じて、建築は一部の特権階級のためだけでなく、すべての人のために役立つ応用芸術であるべきだと主張しました。ラウリッツェンの代表的な作品には、現在ヴィルヘルム・ラウリッツェン・ターミナルとして知られるコペンハーゲン空港の最初のターミナル（1939年）、フレデリクスベアにある国営放送局の建物ラジオハウス（Radiohuset, 1945年）、コペンハーゲンのコンサートホールVega（1956年）、ワシントンDCのデンマーク大使館（1960年）などがあります。

ヴィルヘルム・ラウリッツェンは、1894年9月10日、デンマークのスレイーズという町で生まれました。ソールにある高校（Sorø Akademi）を1912年に、コペンハーゲンの王立芸術アカデミーの建築学部を1921年に卒業し、その翌年Tegnestuen Vilhelm Lauritzen（今日のVilhelm Lauritzen Architects）を設立しました。また、研究のためスペインとギリシャを訪れ、1922年に建築家フリッツ・シュレーゲルと共同で優勝した設計コンペ作品であり初の大作であるデパート「Daells Varehus」をはじめ、ラウリッツェンの後の作品に大きな影響を与えました。

ラウリッツェンのデザインは、空間や形状は何世代も持ちこたえるべきものだ、という明確な思想を表現しています。同時代の建築家と比較して、ラウリッツェンの建築がいかに画期的であったかが分かります。建築において長年焦点となっていたのは、建築物の形状や装飾です。しかし、ヴィルヘルム・ラウリッツェンは、自由な発想で機能性を重視したアプローチをしました。そこから、一見しただけでは彼の才能を見落としてしまうような、シンプルかつ機能性に優れた作品が生み出されました。

プロフィールの詳細は下記よりご覧いただけます。

https://presscloud.com/file/84/846383894025678/JP_Vilhelm_Lauritzen_designerprofil_VLA.pdf

プレス関係のお問合せは下記までお願いいたします。

カール・ハンセン＆サン ジャパン株式会社

ブランド コミュニケーション マネージャー 阿部理歩 AYAHO ABE MAIL : ayab@carlhansen.jp

カール・ハンセン＆サン ジャパン PR SUPPORT

株式会社ハウ MAIL : chs_pr@how-pr.co.jp TEL : 03-5414-6405

メディア掲載時のクレジットは下記記載をお願いいたします。

お客様お問合せ先：

カール・ハンセン＆サン フラグシップ・ストア東京/大阪 <https://www.carlhansen.com>

もしくは

カール・ハンセン＆サン フラグシップ・ストア東京

03-5413-5421